

魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:井脇 由美子 所属:広島市立広島特別支援学校 記録日:平成29年2月22日

キーワード:表現、自信、自己肯定感

【対象児の情報】

・学年 高等部第1学年

・障害名 高次脳機能障害 肢体不自由 知的障害

・障害と困難の内容

平成27年の事故により高次脳機能障害、左半身の麻痺がある。中学3年生までは通常学級に在籍していた。

麻痺があるため両手を使った細かい作業に困難がある。物が二重に見える。脳障害による記憶障害から短期記憶の弱さ、感情のコントロールが難しい面がある。

【活動目的】

・当初のねらい

事故以降、自己肯定感の低下が見られていたことから、「できない」から「これができる」「これがあればできる」という経験を積ませていきたいと考えた。また、中学時の友達とは疎遠になっていたことから、高校での出会い(教師や友達)において人との信頼関係を築いていきたいと考えた。対象生徒が主体的に取り組める内容を設定し、自信をつけること、人のかかわりを増やし、活動に安定して取り組むことをねらいとした。

・実施期間 平成28年5月～

・実施者 井脇 由美子

・実施者と対象児の関係 学級担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

中途障害により自己肯定感の低下が見られ、事故後は精神的に不安定な状態が続いていた。高次脳機能障害による感情のコントロールの難しさもあり、自分の思うようにいかないことがあると自傷他傷がでる。精神科に通院しており、薬の影響で覚醒が下がり授業中に眠くなることが多い。自分が思うようにできなかつたり意欲がわかなくなつたりする授業の内容では一人で退室することもしばしばある。

・活動の具体的内容

①小説の作成

生徒が中学生のときに将来の夢だった小説家について本人と話し小説を書くことを提案し、小説を書きだす。以前からオリジナルの小説を書くことがあったと話していた。昨年度、入院中に小説を書いていたことがあったが、句読点の間違いなど後から修正できずに作成しにくかったと言っていた。小説を読むことも好きで、ハリーポッターのようなファンタジー小説を好んでいる。事故後は物が二重に見えることや長い話になると内容の整理ができないことから、長編小説を読むことはなくなった。「内容が分からない」と言うこともあり、徐々に読まなくなっていた。対象生徒が興味関心をもって主体的に活動することをねらいとしていることから、小説を書くペースについては本人に任せた。アプリは「メモ」「Word」を使用

し、音声入力とかな入力(フリック入力)で作成していた。辞書アプリ「こくご 例解学習」を用いて分からない単語は調べた。

②教師とのSNSメール

学校では薬の影響で眠くなることが多いことや同じクラスに発作のため常に見守りが必要な生徒がいたことから対象生徒とゆっくりと話をする時間をとりにくかった。対象生徒が覚醒高く落ち着いて話ができる時間をとりたいと考え「ByTalk for school」を使い教師とやり取りを行った。また、手紙やノートでのやり取りよりも入力のしやすさがあることも対象生徒にとって合っていると考えた。

・使用アプリ

			
メモ	Word	こくご 例解学習	ByTalk for school
小説の作成には主に「メモ」を使用していた。iCloudでメモの共有ができるため、学校に登校していないときにも小説の進捗状況を教師が知ることができた。ページの区切りがないため、文章が長くなった場合には新たにメモを作り続きを書いていた。	メモが消えてしまうことがあったので、バックアップ用に使用していた。小説の応募を目指していたので、現在何字、何ページ程度あるのかを知ることができた。	分からない言葉や漢字を調べるために使用していた。辞書ページが見やすく、ルビもふってあるため生徒が一人で調べることができた。	登録した人のみが使用できる閉じられたSNSメールのため、安全にメールのやり取りを行うことができた。テキスト、音声、スタンプといった多様な表現方法を活用してやり取りを行っていた。

・対象児の事後の変化

①小説の作成について

小説の作成は対象生徒にとって自発的に取り組める活動だった。小説作成前には期待感をもって教師に伝えることがあった。2学期には小説の応募にも意欲を見せていた。応募には至らなかったが、14000字程度の小説を作成した。ファンタジー小説を好んで書いていたが、10月以降には数種類の小説を書き始めた。書き始めてすぐやめてしまうものが多かったが、随筆のように自分の考えを書き出す内容が見られた。

iPadは、入力方法(かな入力、音声入力など)を選べたので、左手の麻痺や物が二重に見えることからくる「書く(入力)」の困難さを助けることができた。また、分からない言葉は辞書アプリ「こくご 例解学習」で調べる。麻痺のある対象生徒にとっては辞書で調べることは困難だったが辞書アプリを活用することで主体的に語彙を調べることができた。

②教師とのメールのやり取りについて

一学期は教師からの発信が多かったが、夏休み中には対象生徒からの発信が増えた。メールでは画像や音声を送受信でき、生徒の楽しみの一つになっていたようである。画像のリクエストをしたり音声メモを教師に送ったりしてやり取りを楽

しむ様子も見られた。二学期は対象生徒からの発信は減るが、小説の感想を送ると大変嬉しそうな様子で、小説の作成の意欲につながっていた。11月から3ヶ月半の入院生活においても教師と連絡をとることができ、学校の様子を伝えることができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

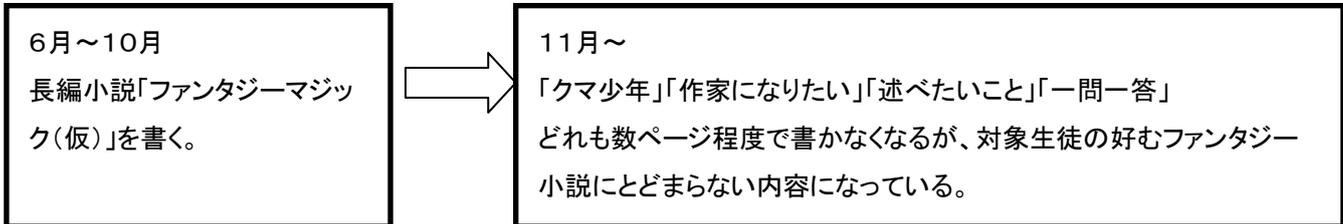
・主観的気づき

- ①小説の作成は対象生徒の主体的に取り組める活動であり、小説の作成を通して考えを整理すること、思いを表現することができた。
- ②学校では活動に参加できないこともあったが、「ByTalk for school」があることで落ち着いてやりとりを行うことができ、期待や不安な思いを伝えることができ、教師との関係も築けた。

・エビデンス(具体的数値など)

①小説の種類から

作成する小説の種類が増え、いろいろな考えを表現したいという思いが高まっていると考えられる。



①小説の内容から

小説の内容	生徒の様子と気づき
<p>5月30日「ファンタジーマジック(仮)」</p> <p>「まえは病院に居てその時は、「……」なにもないとかんじる自分がいた。そう考えると今の自分は、楽しいと感じることもあるし頑張るしかないか、よして気分になる」</p>	<p>5月中は学校の活動に落ち着いて参加できないこともあり、中学校(通常学級)との違いに不満をもちたこともあった。特別支援学校での生活にとまどいと葛藤を感じながらも、今の生活と前の生活を比べ、前向きにとらえている様子が見られる。</p>
<p>11月1日「述べたいこと」</p> <p>人生楽しく生きたもん勝ちだと思います。生きるという事を、諦めないで強く生きようとすれば必ず見つかると思います。</p>	<p>2学期以降、学校では薬の影響で眠くなることが多いが、穏やかに過ごせる日が多くなった。11月からこれまでのファンタジー小説とは違った内容を書き出す。人生について考え、自分なりにまとめている。「楽しく生きよう」「強く生きよう」と、「これから」について考えている。</p>

1 1月23日「作家になりたい少年」

「さっきのある話は、作家になりたい少年が書いたお話だ。〇〇の夢は作家になること〇〇自身が作り上げた普通とはちょっと違う話を多くの人に読んでもらうのが夢だ。

1 1月中旬からリハビリのため長期入院をし、学校は休んでいた。小説を書くペースは落ちるが週に1度は編集している様子が見られる。

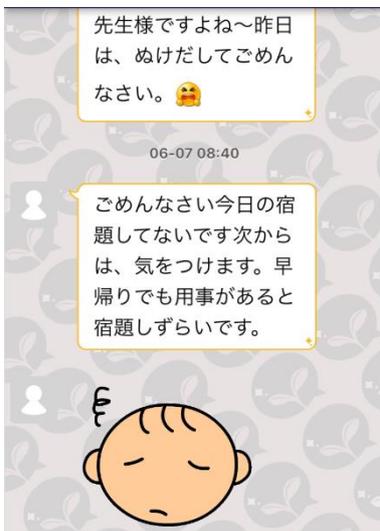
この小説の中では、自分の夢について触れ、未来の自分がどうなっていたいか書いている。

②生徒のメールの内容から

メールの内容

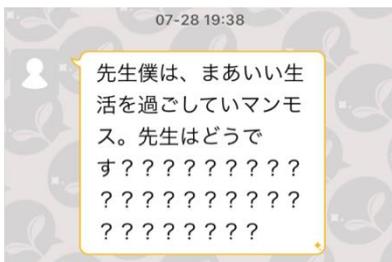
生徒の様子と気づき

6月7日



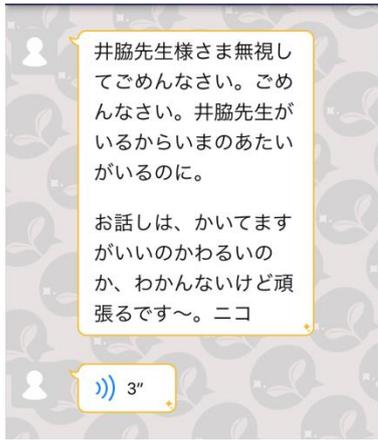
一学期は不安定になることが多く、授業にでられないことや途中退室してしまうこともあった。授業にでなかったことや宿題について対象生徒から話題にすることはなかったが、メールで伝えることがあった。直接伝えづらかった内容もメールで送ることで伝えやすかったり落ち着いたときに伝えることができたりすると考える。

7月28日



夏休みに入ると対象生徒からの発信が増える。夏休み中に気軽にコミュニケーションをとれたことで、対象生徒の不安の解消や教師との関係づくりに大きく影響したと考える。休み中に、自分の生活を話したり教師のことを聞いたりする。登校日の前には楽しみな様子が伝わるメールもくる。

8月22日



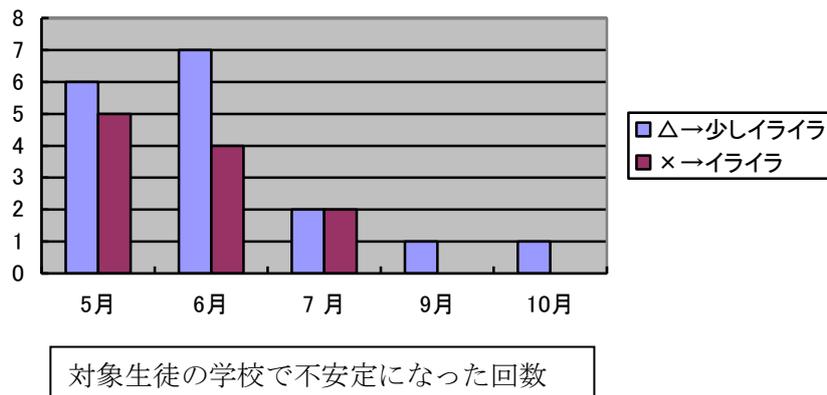
登校日前のメールでは、前回のメールについての内容と小説について送っている。小説の内容について、「いいのが書けているか」と不安になることが時々あり、メールで伝えることもあった。

音声入力では「金曜日会いましょう」と少し高い声で送っている。普段の学校生活でも友達を笑わせるときなどに、声を高くすることがあり、教師とのSNSメールにおいても同様に楽しくコミュニケーションをとっている。

・その他エピソード

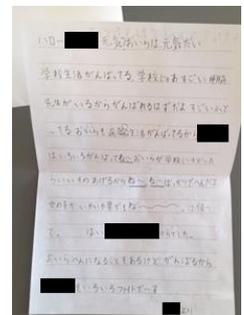
○行動面の変化(10月まで)

不安定になり活動に参加できないこともあったが、4月～10月で学校生活で不安定になる回数は減少していた。11月から3ヵ月半のリハビリ入院があったため学校生活での記録はとれなかった。今後も対象生徒の記録をとり、安定して活動に参加できるように取り組んでいきたい。



○友達とのかかわりについて

入院中に同じクラスや他クラスの友達と手紙のやり取りを行った。対象生徒にとって、大変励みになるものだった。今回の実践では、他の生徒がタブレットを持っていなかったため、SNSメールのやり取りは行わなかった。今後も学校生活の中で友達とかかわる場面を増やしていきたいと考えている。



対象生徒からの手紙

「学校生活がんばってる？病院生活頑張ってるよ。」

学校生活を気にしたり友達からの手紙に励まされたりする様子が見られた。

○教師への影響について

小説の中で生徒の内面を知れたことは、教師の指導にも影響を与えた。11月からファンタジー小説ではないものも書くようになった。生徒が書いた「一問一答」では、自分で考えた問いについて記述している。その中で「楽しく生きる」ことについて答えている。

疑問 正しい楽しいこととは？

答案 正しい楽しい事はたくさんありますね。盗まない、蹴らない、ルールを守る年上の人との関係などたくさんあり大変だけどこれらは正しい事です。こんなにたくさんあるのに全部守るのは楽しいのではなく大変な事かもしれませんがこれを守らないと本当の楽しい事にはたどりつきません。

脳障害のため衝動や感情が抑えられない対象生徒は不適應行動を起こしていた。教師は不適應行動への指導に悩むこともあったが、本当は「正しく生きたい」と思っていることを知り、生徒の気持ちに寄り添う指導を心がけることができた。